

帯広にも、何年ぶりかの黄砂である。今時の風物詩の一つではあるとは言え、迷惑なことだ。黄砂は黄河流域や中国北西部の砂漠地帯が発生源と見られている。年々その発生量が増えているとも言われ、呼吸器疾患など健康に影響する可能性も指摘されている。環境省は、平成 14 年度から韓国と共同で本格的な調査・研究するという。黄土地帯で発生した砂塵嵐によって巻き上げられた黄砂は、偏西風に乗って飛来するが、その経路や速さは気象条件により異なるが、発生地から日本まで約 3000~4000 キロの距離を 3~4 日で到達している。

先般某部隊の玄関に、さる福祉施設からの感謝状が展示してあった。色々と確認してみると、年末の施設訪問を始めて、30 年以上の長い歴史があるという。素晴らしいボランティア活動だ。他の部隊も同様だろうとの思いで調査して貰った。他の部隊に於いてもその部隊と同種のボランティア活動を行っていた。私がかって勤務した函館の部隊では、陸士会（中隊の陸士諸官の親睦団体）が毎年末に施設訪問し、餅つきをし、隠し芸を披露をしていた。それに当時の中隊長であった小生と前任陸曹（今の隊付准尉）が特別参加していた。

さて、師団隷下各部隊は、その隊区を隷下中隊等に分区として担任させており、分区を担当する中隊等は、平素からそれぞれの分区内の町村等と密接な関係を築いている。町村のイベント支援も基本的にはそれぞれの分区担任中隊等がメインとなって実施している。中隊等の規模の災害派遣の場合においては、当該中隊が派遣される場合が多い。

このような密接な関係があることもあり、当該中隊とそれぞれの町村とは非常な親近感をお互いに抱いている。その延長線上にそれぞれの町村に部隊として何か貢献出来ないかとの発想があり、役場当局との調整の結果、分区内の特別養護老人ホームの慰問となったものだ。そしてそれは、今なお継続しており、それぞれの施設の御老人も心待ちにしておられるという。

最も歴史のあるのは、第 4 普通科連隊（帯広駐屯地）の各中隊が昭和 45 年ごろから隊区内 9 町（大樹町、陸別町、浦幌町、豊頃町、足寄町、本別町、池田町、広尾町）の特別養護老人ホームを年末に慰問している例だろう。各中隊は、10~15 名の規模で慰問し、音楽演奏や寸劇等を行っている。

他に、釧路の 27 連隊、帯広の第 5 特科連隊の曹友会（部隊の陸曹の親睦団体）による施設慰問、部隊の隊員数名によるケアセンターでの炊き出し支援等がある。

施設訪問以外のボランティア活動も盛んである。鹿追の戦車大隊の曹友会は、毎年 5 月に 20 名弱で鹿追町内特別老人ホームの花壇整備を行っている。これは鹿追町が花の町を標榜し、町民挙げて家々の前に花壇を整備し、ウィンドウギャラリーが出来るように補助もし、トピアリを盛んにしているそれらに貢献しようとの意欲の賜物である。

クリーン作戦は最もポピュラーなボランティア活動だ。その活動開始の時期も発端もマチマチだが、今では年中行事のように、例年同じ時期に同じ要領で実施している。その殆どの活動は曹友会が主催し、曹友会の行事として行われている。不思議なことに、クリーン作戦は平成に入ってから始まっている。曹友会活動を奨励した時期でもあり、世間でもボランティアに関心が深まった時期でもある。いずれにしろ、このような形で自衛官が社会に係わることは良い事だ。

そのクリーン作戦であるが、
まず、第4普通科連隊の曹友会は約250名を持って帯広の森運動公園の清掃奉仕を、
第5特科連隊の同じく曹友会は約400名を持って帯広市のグリーンパークの清掃を、
別海の曹友会は、西春別駅前公園の清掃と野付半島の雑草処理を
釧路曹友会は、釧路町の釧路湿原原岡展望台の清掃を
美幌曹友会は、網走川河川敷の清掃を
美幌第6普通科連隊の中隊が、老人ホームや清里市街地、斜里岳清掃を
を行っている。

従来地域に貢献し地域と一体化する自衛隊を標榜し、それを一つの目標として各部隊は、健気な努力を続けてきた。その成果は既述の通りである。自衛隊に今まで以上の多様な役割が期待される中で、本務の教育訓練の幅も深みも広がりを見せている。その中で如何にして地域との連携を維持するか、新たなる挑戦を受けているのかもしれない。